

第3回 藤枝市認知症とともに生きる共創のまちづくり委員会

主 催：藤枝市 健康福祉部 地域包括ケア推進課

と き：令和7年1月8日（水）午前10時～

ところ：市役所西館3階 302・303会議室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 健康福祉部長あいさつ

4. 議事

（1）第1回認知症とともに生きる共創のまちづくりワークショップのまとめの報告について

（2）第2回認知症とともに生きる共創のまちづくりワークショップの進め方について

5. 連絡事項

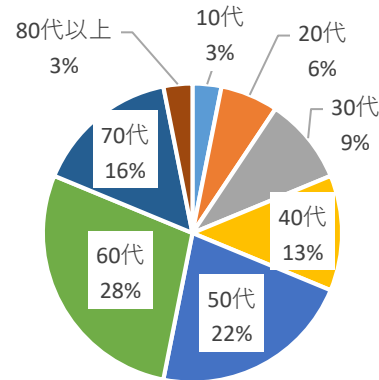
第1回 認知症とともに生きる共創のまちづくりワークショップ アンケートまとめ

- ・日 時 令和6年12月15日（日）14時～16時
- ・場 所 藤枝市立駅南図書館 集会室
- ・参加者 39名

・あなたの年代を教えてください。

10代	1
20代	2
30代	3
40代	4
50代	7
60代	9
70代	5
80代以上	1
合計	32

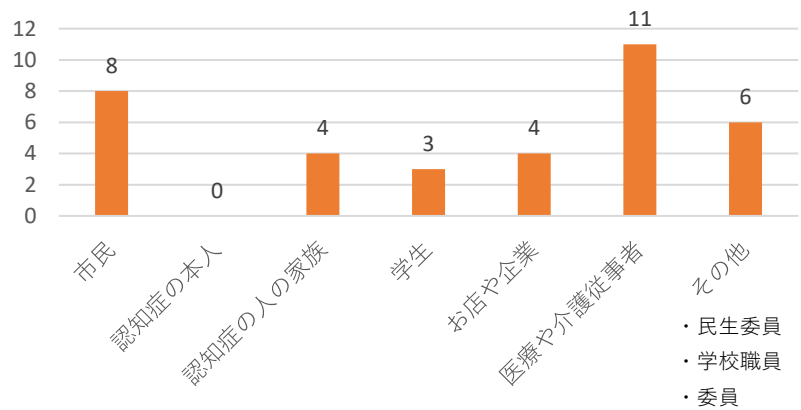
年代



・あなたの立場について教えてください。※複数回答可

市民	8
認知症の本人	0
認知症の人の家族	4
学生	3
お店や企業	4
医療や介護従事者	11
その他	6
合計	36

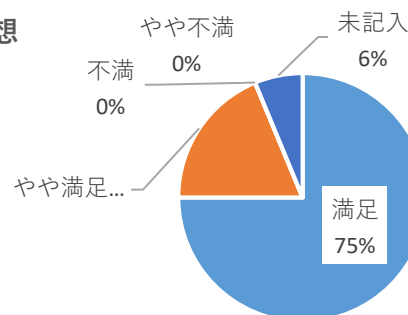
立場



1. ワークショップの感想についてお答えください。

満足	24
やや満足	6
やや不満	0
不満	0
未記入	2
合計	32

感想



2. 1の理由について

当事者の方々の思いを聞ける貴重な機会でした。Fグループのワークショップもとても充実していました。
普段関わる事のない人もいたので、その方達の意見を聞くことができた。困り事について、多くの意見がでたので業務にも活かしたい。
認知症に関する理解が深まりました。考え方の新たな視点があるのに、気が付きました。
もう少し話し合う時間が欲しかった。
認知症の方の価値観や希望を、知る事ができました。
市民の方の認知症に対する気持ちを聞けて、まだまだ理解がされてないと感じた。新しい考え方をもっと普及していく必要がある。
認知症をともに生きる共創まちづくりで情報共有、交換できたので、このようなことは、今後に活かす事でできそうです。
発表の時間が少なかった。
認知症の理解が深まったとともに、認知症の方の声を実際に聞くことができた為。
時間が少なかったことと、細かい内容を先に連絡して欲しかった。
広く、認知症を知らしめるべき。
認知症家族が今必要だと思う事について、話す事が出来ました。
いろいろの方の意見が聞けて嬉しかったです。
みんな熱心。
グループワークでは話が聞こえずらい。
本人の言葉を聞き大変良かったです。
グループワークで様々な立場での意見を共有できたことは、今後に繋がる。
様々な立場の方の話や意見を聞くことが出来て、勉強になりました。気付きの大切さも再確認しました。
委員会でのお話の中でも、色々聞いていますが、他の方向からの意見が聞けて良かったです。
誰にでも起きる事なので、勉強してみたかった。
それぞれの立場の色々な意見を聞いた事。
始めは緊張しましたが、良い時間が過ごせました。
もっと一般の方の意見を聞けると良い。グループワークの時、周りのグループも話しているので、自分のグループの方の声が聞こえにくい。
このような機会をもってもらった事。次回にも有るので、有れば友達にも知らせてあげたい。
認知症のご本人からの話は、具体的にどんな思いであったのか、どんな感じにいるのかを知ることができた。認知症への理解といってもテキストにあるようなことだけでは理解は難しく、やはりご本人の声を聴いて理解していくこと、また、具体的に何ができるのかを考えていくことが出来ると思いました。
大人の方々とコミュニケーションをとれ、障害に対して考える機会になりました。認知症になってしまったから人生の終わりとかではなく、周りの人を助け合ったり、優しくしてもらったりと周りの人に支えてもらいながら生きているのだとおもいました。そして、自分でやることはやるなど、前向きな気持ちに、感心な気持ちを抱きました。
当事者の発信が参考になり、生きる力になっているのを感じました。
自分では調べてもでてこない貴重なお話を、関係者の方だけでなく、認知症の当事者の方から、お話を伺うことができた為。

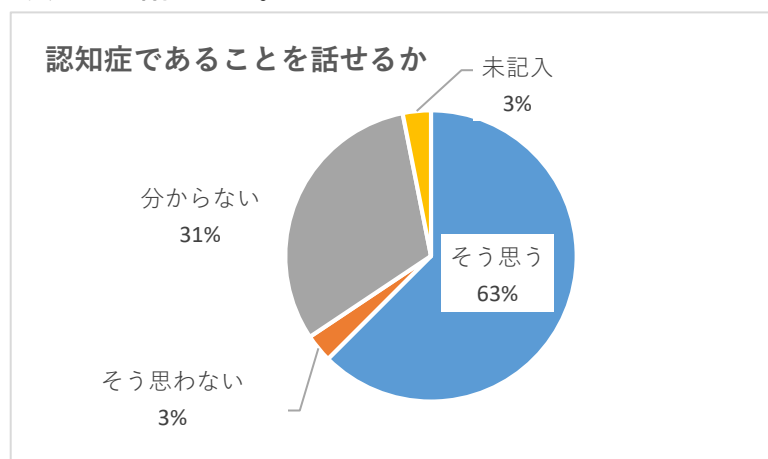
認知症の方ご本人の声を聞くことができた。気づきをたくさんもらえました。グループワークでは、一緒に考えることができた良かったです。

当事者の方の貴重なお話をお聞きすることができ、またグループワークで充実した時間を過ごすことができて、とても有意義な研修会でした。ありがとうございました。

初めて認知症の方、本人の話を聞かせて頂きました。貴重な体験をすることが出来ました。ありがとうございます。

3. 認知症であることを周囲の人や身近な地域で安心して話せるか。

そう思う	20
そう思わない	1
分からない	10
未記入	1
合計	32



4. 3の理由について

【そう思う】

ポジティブな意見が聞けて、前向きな気持ちになったから。

地域がopenにできる環境に、進化していくことを望みます。

知識の理解があると感じているので。

市が充役している為。

知ってもらふ事が、認知症の理解になると思う。自分から発信する。

助けていただき、前向きに生きたいから。

住み慣れた地域で安心して生活していくには、周囲の人や身近な地域の人との協力が必須。

周囲の人になんでも話しているから。

これから参考にしていきたいと思います。

伝える事で、社会が変わっていくことを期待して。

皆に支えて欲しいからかな？

多分自分で診断して、理由を公表して、診療所を閉じると思うので。

安心できる街づくりが実現することで、隠すことなく、自分らしく、今までと変わらない生活が送れるといいなと思いました。

優しい人が沢山いるから。

家族だけでは大変。

知ってもらった方が、お互い気持ちが楽だと思った。

かなりためらいがあると思います。しかし、話すことで気持ちも変わると思います。

【そう思わない】

まだ認知症のある人への理解は十分とは言えず、困っていることや支援、不明な事も多い為。

【分からない】

周りの人の理解がまだ進んでいないと思うから、どこまで理解してくれているかははかれるものが、わかりやすいものがあると良い。

その時の自分の症状や、家族の気持ちを確認していない為。
切実感が足りない為、もっと理解で深またいと思いました。
どのようになるか、自分で分からない。
地域で話せるかは、繋がりがあまりない事、店舗を経営している事を考えると分からない。
様々な制度はあるがうまく活用できる人、そうでない人がいること。対応する専門職のスキルアップが必要。
自分がどんな風が変わっていくのか、とっても不安。藤枝市がこんなに認知症の方の事を思っているとは、嬉しかったです。
自分なるイメージが具体的にもてていない為。

グループワーク① 安心して認知症とともに生きることができるまちに必要なこと		グループワーク② わたしたちにできること	
理解	・当たり前はひとそれぞれ ・1人1人が認知症について正しく認識 ・当事者からのメッセージ ・知る機会がもっと多ければいいなと思う ・認知症は人生のプロセス ・認知症と言わなくても暮らせる理解 ・自分もいずれ認知症になるということを理解する ・子どもの頃から認知症について勉強する機会があると良い、福祉教育 ・認知症だからってなにもできない人って思わない ・認知症というイメージが良いイメージがない。	理解を深める	・本人が発信する ・当事者のメッセージや工夫を短い動画で沢山作る ・認知症本人の言葉にしっかり耳を傾ける ・暮らしやすいか、どのようなことがバリアになっているか、本人に聴く ・当事者である本人の声と家族の声をいろんな方に伝える ・条例についてもみんなに伝え、共に考えていきたい ・新しい認知症観について知ることができる ・一緒に何かをする ・認知症のことを正しく理解してもらえるよう様々な年代に伝える場を設ける ・認知症に対する見方や考え方を正しく伝える ・認知症になってからも自分らしく生活するための方法があることを知ってほしい ・地域での啓発活動 ・認知症のことを学ぶときに介護についても知っておく ・対応方法、声掛けの講座や勉強会をたくさん開催する ・認知症の講演に参加する ・今日の学びをできる限り多くの場で発信していくこと
支え合い	・できないところを分かってくれる ・助け合いが自然にできる ・認知症と言わなくてもいい ・挨拶が気軽にできる ・困った時に頼める人がいる、相談できる ・相手を思いやる気持ちをたくさん持った人がいる ・お願いすると分かってくれる ・柔軟に声かけられる ・ご近所の方々のサポート ・同じ立場で生活が続けられるまち	支え合い	・困っている人がいたら声をかける（道迷い、気になる人がいたら） ・会うことが少なくなった近所の方へ声をかけてみる ・話し相手になる ・できることを止めさせない ・偏見を持たず、普通のこととして接する ・本人も周りも言いやすい環境づくり ・ありがとう、お願いの言える地域 ・「この人になら言っても良い」人を作っておく ・認知症本人の言葉にしっかり耳を傾ける ・家族の方の思いを汲む ・自分の家の周りの人に挨拶をする、近所との挨拶 ・言葉が出づらくても、行動が遅くても待てる ・先回りしてやるのではなく、見守る ・移動支援や買い物支援などしていきたい ・本人や家族にとって必要な人、支援につなげる ・相手に合わせた話し方で接する、勝手に思い込まない ・さりげないサポート、サポートを頼んでも良いと感じる対応 ・困りごとを抱えた人がいたら、協力できる人が増えたらいい ・高齢者(1人暮らし)の方に近所づきあいの中で、食事やゴミ出しの手伝いをする ・住んでいる地域の人が見守りをする ・同じ班の人の名前を覚える ・地区の行事、近所づきあいに参加する、防災訓練等 ・居場所に参加する ・困った時は相談できる場所があることを知ってもらうように発信する ・本人の意思、望む生活をあらかじめ聴いておく、まずは家族で
環境	・周りには何に困っているか分かりづらいけれど、本人には障壁が沢山ある (セルフレジが暮らしの中でのバリア、トイレットペーパーの場所がわかりづらい) ・買い物、スーパーでの支払いが安心してできると良い (買い物がしやすいよう認知症用のカードみたいなものを作る、買い物の際に大変な人のため用のレジを作る、カード型の決済手段、小さな店舗も普及、地域通貨、ヘルプカードの積極的な活用、介護マーク) ・スーパー、銀行、乗り物、役所、認知症にやさしいまちづくりを ・苦手なところを手伝ってくれる仕組み ・お金の管理のお手伝いができる仕組み ・ごみの分別、ごみ出し ・家族だけでなく、社会でみんなでみる	環境	・本人に助けてほしいことを教えてほしい、知りたい ・認知症の人でも安心して買い物のできる店舗づくり ・公共サービスやスーパー等のよく利用する施設におけるユニバーサルデザイン化 ・ヘルプカードに対する理解と浸透 ・認知症の人に先回りしてヘルプをしない

【外出】	・行きたいところに自由に行ける仕組み、車が運転できなくても困らないまち ・いつでも安心して移動できる交通手段 ・買い物、散歩、疲れたときに休める場所等、気軽に出かけられるまち ・水路等の蓋、安全な歩道が必要		・認知症で外に出て迷ってしまう人に対する具体的な対策を考える ・1人で外に出ても大丈夫なように名前や住所が分かるようにする
【働く】	・仕事を続けられる周囲（職場）の理解 ・認知症になってからも働ける職場 ・軽度認知症の人が働ける場所がある ・できることの範囲で認知症になっても働ける社会がある		・その人らしさを大切にできる環境づくり ・好きなことややりたいことに接する機会を設ける ・認知症の方々の工夫を集めて公開する(データベース) ・困っていることをどうにかするというより、やりたいことを一緒にやる、これまでの考え方から視点を変える
【居場所】	・本人も家族もそうでない人も、垣根を作らず、集えるようになること ・本人や家族や、経験や辛さを話せる場所、聞ける場所があるまち ・自助グループ、ピアサポートの場 ・介護家族同士で共感しあえる場所があること ・コミュニティや活躍できる場の提供		
自立をサポート	・やりたいことができる　　・やりたいことをやりたい ・まずはやってみる、失敗しても良い ・ダメだったら次の方法や工夫と一緒に考える ・何を買うか忘れるから書いておく⇒本人の工夫 ・認知症にも色々な症状があるが、その人にできることは何かを考えお願いしたり、頼っていくことが大切 ・本人が落ち込まないで希望を持てる ・本人にやりたいことや仕事など、好きなことをやってもらう	本人が力を活かす	・自分のできることをやる ・自分なりの工夫 ・分からないことは、伝える
相談体制	・困っている人が自分から意思表示ができる ・発症したときに相談できる場所に適切に繋げる仕組み ・早い段階から気軽に行ける窓口　　・どこに何を相談できるか分かりやすいこと ・声をかけて繋げる役割の人を多くする ・気軽に相談できる場所　　・本人が自分で相談しやすい場所がたくさんあること ・認知症を正しく診てくれる医療機関 ・認知症の本人や家族を支える制度　　・障害年金の相談 ・認知症だということを言える(分かってもらえる)ことが大事 ・早期の認知症に対しての検診制度が充実すると良い。 適切な医療や介護が早期に提供できるように ・24時間いつでもコールして悩み、不安を聞いてくれるところ		・診断や治療、家族の理解や指導、ケアマネとの連携、かかりつけ医への啓蒙 ・かかりつけ医の理解向上　　・関係機関への情報提供 ・ちょっとだけお節介になる ・安心すこやかセンターを知ってもらう ・早期発見、適切な福祉サービス等へつなげること ・CMと連携　　・家族の連携　　・医療と福祉の連携 ・介護保険での関わりを持つ ・関係機関に本人ミーティングのことを周知する ・認知症の方を地域で支えるためのチーム作り ・家族以外に本人を支えるチーム ・風通しの良い施設にする
家族支援	・認知症の方を持つ家族のサポートが大事　　・外出支援 ・家族の悩みや愚痴を聞いてもらえる人や場所があると良い ・家族の方へのケアの充実 ・認知症の家族として困っているとき、スムーズに受け入れてくれる施設がある	家族のサポート	・認知症介護家族の話聞く　　・介護家族の会を続けること　　・家族の方の思いを汲む ・家族として困った時は積極的にヘルプを求める ・家族の悩みや思い、困っていること等を話しても良いと思ってもらえること ・家族が認知症であることを隣近所に伝える　　・男性介護者が孤立せず、繋がれるように ・家族の方話を聞いてあげ、気持ちを楽にしてあげたい

第2回

認知症とともに生きる 共創のまちづくりワークショップ



認知症は子どもから大人まで全ての人に関わりのあるものです。
誰もが安心して認知症とともに生きることができるまちづくりを進めて
いくため、多様な世代や立場のみなさんの声や意見を聴き、
共に考えていくためのワークショップを開催します。

参加者にオリジナル
エコバッグをプレゼント！

日時

2025
2/3（月） 14:00～16:30

場所

藤枝市生涯学習センター
（藤枝市茶町1-5-5）

内容



トークセッション 『暮らしやすいまちを共に創る』

— 認知症の人・家族・お店や企業 それぞれの立場から —

グループワーク

「安心して認知症とともに生きるまち」に必要なことを考えます。

申し込み方法

電話(643-3225)か
二次元バーコードよりお申し込みください。



お問い合わせ

藤枝市 地域包括ケア推進課

電話：054-643-3225 メール：chiikicare@city.fujieda.lg.jp

R7.1.8現在

資料 4

	令和6年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和7年 1月	2月	3月
認知症とともに生きる 共創のまちづくり委員会	(準備会) 7/11	①委員会 8/8		②委員会 10/16		12/3 認知症施策推進計画 閣議決定(国)	③委員会 1/8		④委員会 3/
部会①、②				部会② 10/4			第1回 ワークショップ 12/15 (部会)	第2回 ワークショップ 2/3 (部会)	基本方針・基本施策 の決定
事務局			・オレンジラン プ上映会×トー クイベント ・共創のまちづ くり動画作成						
						本人の視点に立った声の聞き取り			

認知症施策推進基本計画の概要

【位置付け】共生社会の実現を推進するための認知症基本法（令和5年法律第65号。以下「基本法」という。）に基づく国の認知症施策の基本計画。これに基づき、地方自治体は推進計画を策定（努力義務）。

前文／Ⅰ 認知症施策推進基本計画について／Ⅱ 基本的な方向性

- 基本法に明記された共生社会の実現を目指す。
 - 認知症の人本人の声を尊重し、「新しい認知症観」※に基づき施策を推進する。
※①誰もが認知症になり得ることを前提に、国民一人一人が自分ごととして理解する。②個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間と共に、希望を持って自分らしく暮らすことができる。
- ⇒ ①「新しい認知症観」に立つ、②自分ごととして考える、③認知症の人等の参画・対話、④多様な主体の連携・協働

Ⅲ 基本的施策

- 施策は、認知症の人の声を起点とし、認知症の人の視点に立って、認知症の人や家族等と共に推進する。
- ⇒ 以下の12項目を設定：①国民の理解、②バリアフリー、③社会参加、④意思決定支援・権利擁護、⑤保健医療・福祉、⑥相談体制、⑦研究、⑧予防、⑨調査、⑩多様な主体の連携、⑪地方公共団体への支援、⑫国際協力

Ⅳ 第1期基本計画中に達成すべき重点目標等

- 次の4つの重点目標に即した評価指標を設定：①「新しい認知症観」の理解、②認知症の人の意思の尊重、③認知症の人・家族等の地域での安心な暮らし、④新たな知見や技術の活用
- 評価指標は、重点目標に即して、プロセス指標、アウトプット指標、アウトカム指標を設定

Ⅴ 推進体制等

- 地方自治体において、地域の実情や特性に即した取組を創意工夫しながら実施
- 地方自治体の計画策定に際しての柔軟な運用（既存の介護保険事業計画等との一体的な策定など）
- ①行政職員が、認知症カフェ等様々な接点を通じて、認知症の人や家族等と出会い・対話する、②ピアサポート活動や本人ミーティング等の当事者活動を支援する、③認知症の人や家族等の意見を起点として、施策を立案、実施、評価する。

基本的施策（抄）

1. 認知症の人に関する国民の理解の増進等

- ・ 学校教育、社会教育における「新しい認知症観」に基づく実感的理解の推進
- ・ 認知症の人に関する理解を深めるための、本人発信を含めた運動の展開（認知症希望大使の活動支援）

2. 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進

- ・ 認知症の人が自立し安心して暮らすための、地域における生活支援体制の整備等（地域の企業や公共機関等での認知症バリアフリーの推進）
- ・ 事業者が認知症の人に適切に対応するために必要な指針の策定

3. 認知症の人の社会参加の機会の確保等

- ・ 認知症の人自らの経験等の共有機会の確保（ピアサポート活動の推進）
- ・ 認知症の人の社会参加の機会の確保（本人ミーティング、介護事業所における社会参加活動等の推進）
- ・ 多様な関係者の連携・協働の推進による若年性認知症の人等の就労に関する事業主に対する啓発・普及等

4. 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護

- ・ 認知症の人の意思決定支援に関する指針の策定、情報提供（「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」の改定）
- ・ 認知症の人に対する分かりやすい形での意思決定支援等に関する情報提供

5. 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等

- ・ 専門的な、又は良質かつ適切な医療提供体制の整備（認知症疾患医療センターの相談機能の充実）
- ・ 保健医療福祉の有機的な連携の確保（認知症初期集中支援チームの見直し、認知症地域支援推進員の適切な配置）
- ・ 人材の確保、養成、資質向上（認知症に関する研修の在り方の見直し）

6. 相談体制の整備等

- ・ 認知症の人の状況等に配慮し総合的に対応できる体制整備（地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等の相談体制整備）
- ・ 認知症の人又は家族等が互いに支え合うための相談・交流の活動に対する支援等（認知症地域支援推進員の適切な配置、認知症カフェ、ピアサポート活動、認知症希望大使の活動支援）

7. 研究等の推進等

- ・ 予防・診断・治療、リハビリテーション・介護方法等の研究の推進・成果の普及
- ・ 社会参加の在り方、共生のための社会環境整備その他の調査研究、検証、成果の活用（介護ロボット・ICT等の開発・普及の支援）

8. 認知症の予防等

- ・ 科学的知見に基づく知識の普及・地域活動の推進・情報収集
- ・ 地域包括支援センター、医療機関、民間団体等の連携協力体制の整備（早期発見・早期対応・診断後支援まで行うモデルの確立）

9. 認知症施策の策定に必要な調査の実施

- ・ 若年性認知症の人を含む認知症の人の生活実態、社会参加・就労支援を促進する体制や社会実装の方策など共生社会の実現に関わる課題の把握と課題解決に向けた調査研究

10. 多様な主体の連携

- ・ かかりつけ医、地域包括支援センター、認知症地域支援推進員、認知症サポート医、認知症初期集中支援チーム、居宅介護支援事業所、認知症疾患医療センター等の連携及び地域住民を含む多様な主体との協働、分野横断的な取組の推進

11. 地方公共団体に対する支援

- ・ 地方公共団体の参考となるような取組の共有などの支援

12. 国際協力

- ・ 外国政府、国際機関、関係団体等との連携、我が国の高齢化及び認知症施策の経験や技術について世界に向けて情報発信

重点目標・評価指標

重点目標	プロセス指標	アウトプット指標	アウトカム指標
①国民一人一人が「新しい認知症観」を理解している	- 地域の中で認知症の人と出会い、その当事者活動を支援している地方公共団体の数 - 認知症サポーターの養成研修に認知症の人が参画している地方公共団体の数	- 認知症希望大使等の本人発信等の取組を行っている地方公共団体の数 - 認知症サポーターの養成者数及び認知症サポーターが参画しているチームオレンジの数	- 認知症や認知症の人に関する国民の基本的な知識の理解度 - 国民における「新しい認知症観」の理解とそれに基づく振る舞いの状況
②認知症の人の生活においてその意思等が尊重されている	- ピアサポート活動への支援を実施している地方公共団体の数 - 行政職員が参画する本人ミーティングを実施している地方公共団体の数 - 医療・介護従事者等に、認知症の人の意思決定支援の重要性の理解を促す研修を実施している地方公共団体の数とその参加者数	- 認知症施策に関して、ピアサポート活動等を通じて得られる認知症の人の意見を反映している地方公共団体の数 - 認知症施策に関して、ピアサポート活動等を通じて得られる家族等の意見を反映している地方公共団体の数	地域生活の様々な場面において、認知症の人の意思が尊重され、本人が望む生活が継続できていると考えている認知症の人及び国民の割合
③認知症の人・家族等が他の人々と支え合いながら地域で安心して暮らすことができる	- 部署横断的に認知症施策の検討を実施している地方公共団体の数 - 認知症の人と家族等が参画して認知症施策の計画を策定し、その計画に達成すべき目標及び関連指標（KPI）を設定している地方公共団体の数 - 医療・介護従事者に対して実施している認知症対応力向上研修の受講者数	- 就労支援も含めて個別の相談・支援を実施していることを明示した認知症地域支援推進員や若年性認知症支援コーディネーターを設置している地方公共団体の数 - 認知症バリアフリー宣言を行っている事業者の数 - 製品・サービスの開発に参画している認知症の人と家族等の人数 - 基本法の趣旨を踏まえた認知症ケアパスの作成・更新・周知を行っている市町村の数 - 認知症疾患医療センターにおける認知症関連疾患の鑑別診断件数	- 自分の思いを伝えることができる家族、友人、仲間がいると感じている認知症の人の割合 - 地域で役割を果たしていると感じている認知症の人の割合 - 認知症の人が自分らしく暮らしていると考えている認知症の人及び国民の割合 - 認知症の人の希望に沿った、保健医療サービス及び福祉サービスを受けていると考えている認知症の人の割合
④国民が認知症に関する新たな知見や技術を活用できる	国が支援・実施する、認知症の人と家族等の意見を反映させている認知症に関する研究事業に係る計画の数	国が支援・実施する、認知症の人と家族等の意見を反映させている認知症に関する研究事業の数	国が支援・実施する、認知症に関する研究事業の成果が社会実装化されている数